

日本の
ひなた
宮崎県

今月の主要経済指標

目次

今月の経済関係統計資料

1 宮崎県景気動向指数	1
2 宮崎県の鉱工業指数	2
3 みやざきの賃金・労働時間・雇用の動き	3
4 宮崎市の消費者物価指数	4

【参考】

・ 「月例経済報告」抜粋	5
・ 「宮崎県内経済情勢報告」抜粋	6
・ 「宮崎県金融経済概況」抜粋	8
・ データ編	10

平成28年5月



宮崎県総合政策部統計調査課

1 宮崎県景気動向指数（平成28年2月分）

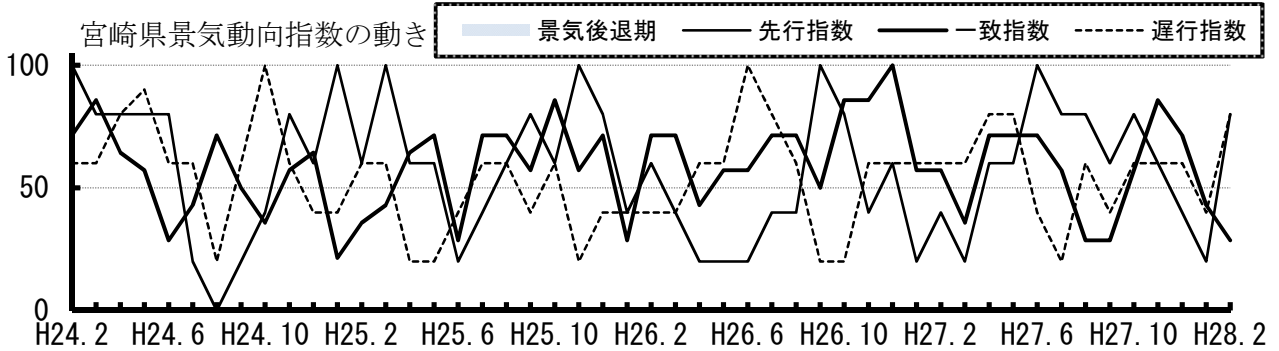
(1) 今月の動き

平成28年2月の本県のDIは、

先行指数は 80.0%となり、3か月ぶりに 50.0%を上回った。

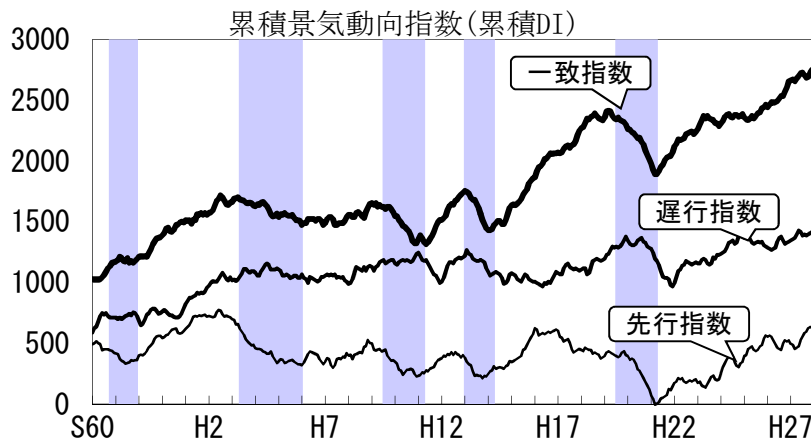
一致指数は 28.6%となり、2か月連続で 50.0%を下回った。

遅行指数は 80.0%となり、2か月ぶりに 50.0%を上回った。



	採用 指標数	拡張 指標数	プラスの指標（拡張指標）	マイナスの指標
先行系列	5	4	新規求人数（パート含む）、鉱工業在庫率指数（逆）、新設住宅着工戸数、ホテル・旅館宿泊客数	新車登録台数（乗用車）
一致系列	7	2	輸入通関実績（実質）、雇用保険受給者実人数（逆）	有効求人倍率、大口電力使用量、大型小売店販売額（実質）、鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数
遅行系列	5	4	家計消費支出（勤労者世帯）、消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）、資本財出荷指数、貸出約定平均金利	鉱工業在庫指数

(2) 累積景気動向指数



シャドウ部分：景気後退期

- 見やすくするため、先行指数には 500、一致指数には 1000、遅行指数には 600をそれぞれ加算している。

(参考)

景気動向指数：景気が上向きか、下向きかを総合的に示す指数である。50%を上回って推移しているときは景気拡張局面、下回って推移しているときは景気後退局面と判断される。

累積景気動向指数：各指数から景気判断の基準となる50を引くことで、景気の拡張・後退の動向だけを確認することができる指数である。

2 宮崎県の鉱工業指数（平成28年2月分）（平成22年＝100）

平成28年2月の鉱工業指数（季節調整済指数） 注

	宮 崎 県		全国（参考）		九州（参考）	
		前月比(%)		前月比(%)		前月比(%)
生産	98.5	▲ 1.7	93.2	▲5.2	98.6	▲2.5
出荷	105.1	▲ 2.4	92.8	▲4.1	102.6	▲1.4
在庫	117.5	▲ 0.7	112.1	▲0.4	122.7	▲0.6

注 季節調整済指数とは、1年を通してほぼ規則的に繰り返す季節的な変動を除去した指数

【生産】

98.5（前月比1.7低下） ～2か月ぶりの低下～

上昇に寄与した業種（5業種）			低下に寄与した業種（6業種）		
主 な 業 種		前月比	主 な 業 種		前月比
1	繊維工業	2.7	1	鉄鋼・金属製品工業	▲ 16.0
2	輸送機械工業	8.9	2	はん用・生産用・業務用機械工業	▲ 7.3
3	電子部品・デバイス工業	0.8	3	電気・情報通信機械その他工業	▲ 3.0

【出荷】

105.1（前月比2.4低下） ～2か月ぶりの低下～

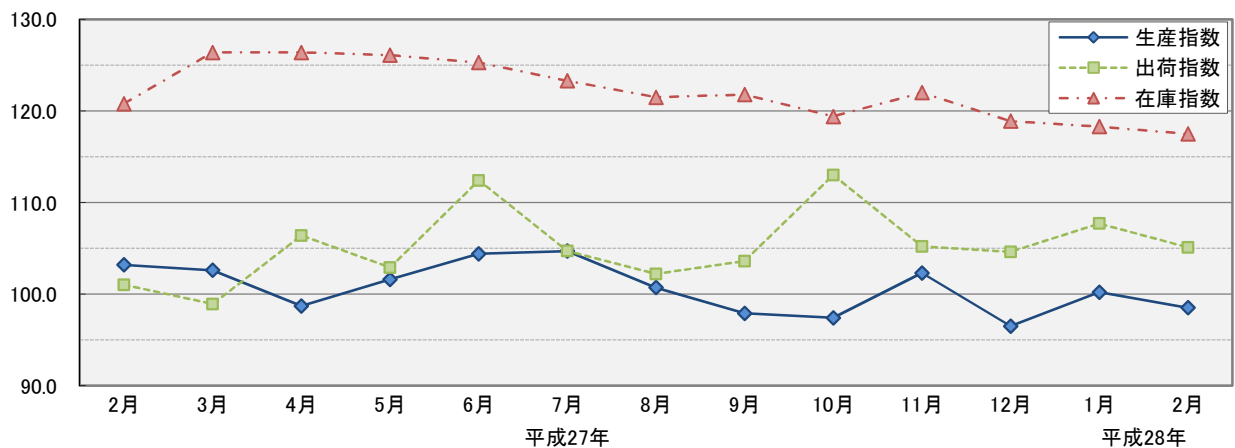
上昇に寄与した業種（5業種）			低下に寄与した業種（7業種）		
主 な 業 種		前月比	主 な 業 種		前月比
1	電気・情報通信機械その他工業	10.8	1	食料品工業	▲ 5.7
2	繊維工業	13.5	2	はん用・生産用・業務用機械工業	▲ 13.9
3	電子部品・デバイス工業	5.0	3	鉄鋼・金属製品工業	▲ 14.4

【在庫】

117.5（前月比0.7低下） ～3か月連続の低下～

上昇に寄与した業種（6業種）			低下に寄与した業種（3業種）		
主 な 業 種		前月比	主 な 業 種		前月比
1	化学工業	5.3	1	電子部品・デバイス工業	▲ 11.6
2	はん用・生産用・業務用機械工業	6.5	2	食料品工業	▲ 2.0
3	パルプ・紙・紙加工品工業	5.3	3	鉄鋼・金属製品工業	▲ 0.8

宮崎県の生産・出荷・在庫指数の推移（季節調整済指数）（平成22年＝100）



鉱工業指数は、本県の鉱工業の動向を総合的に把握することを目的に、生産・出荷を108品目、在庫を69品目選定し、それぞれ指数化したものです
平成25年12月に平成22年基準に切り替えました。

*** 参考資料**

「宮崎県金融経済概況」抜粋（平成28年4月1日：日本銀行宮崎事務所）

この公表資料は当事務所ホームページに掲載しています。

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/miyazaki/>

2016年4月1日
日本銀行宮崎事務所
日本銀行鹿児島支店

宮崎県金融経済概況

【概要】

宮崎県の景気は、持ち直しの動きが続いている。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、一部に弱い動きがみられるものの、底堅く推移している。観光は、改善している。住宅投資は、基調としては持ち直している。一方、公共投資は、減少している。

生産は、横ばい圏内で推移している。

企業部門の動向を短観（3月＜鹿児島・宮崎両県集計分＞）で見ると、景況感は、良好な状態を維持している。設備投資は、良好な収益環境のもとで前向きなスタンスが維持されている。また、人手不足感は強まっている。

こうした企業動向を反映して、雇用環境は改善している。

【各論】

1. 個人消費

乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、軽自動車を中心に前年を下回って推移している。大型小売店販売額は前年を下回って推移している一方、家電販売額は前年を上回って推移している。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を上回った。

3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を上回った。

4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、貸家、分譲を中心に前年を上回った。

5. 生産

鉱工業生産指数(季節調整済)は、はん用機械や化学、繊維を中心に前月を上回った。

6. 雇用環境

求人数は増加基調、求職者数は減少基調を続けており、有効求人倍率(季節調整済)は、高水準で推移している。

現金給与総額は、前年を上回った。

常用雇用者数は、減少を続けている。

7. 物価

消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)の前年比は、0%程度で推移している。

8. 金融面

預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。

企業倒産件数は、低水準で推移している。

以 上

